

2004年度第2回 長期計画企画拡大会議 議事記録

日時：2004年(平成16年)6月2日(水) 15:30～16:35

場所：L-911

出席者：計 93名

欠席者：計 18名

配布資料：

A. 事前配布

1. 新ホフマン計画案(最終報告書)『経済学研究科の改組』
2. 新ホフマン計画案(最終報告書)『生涯教育ビジョンに基づいた「公開講座の再編」骨子』

B. 当日配布

1. 企画書(最終報告/新ホフマン計画[案])について 意見書
2. 総合人間科学部(計画中) リーフレット

C. プロジェクト映写資料

1. 『基金・募金・寄付金室(仮称)の組織体制並びに活動計画概要(案)』
2. 『長期計画 進捗状況』

議 事

1. 新ホフマン計画(案)の審議について

専門部会各検討専門委員会における企画案の検討を踏まえ、最終企画案(最終報告)を「新ホフマン計画(案)」として審議した。

(1) アカデミック・プラン等検討専門第2委員会

(a) 「経済学研究科の改組」

- 笠島学術交流担当副学長(アカデミック・プラン等検討専門第2委員会委員長)からの概要説明の後、藤原学事部学務課係長(アカデミック・プラン等検討専門第2委員会事務担当)から標記の最終報告書の朗読があった。
 - 現在、博士前期課程「経済学専攻」、博士後期課程「経済制度・組織専攻」の1専攻体制となっているが、これを前期課程・後期課程とも「経済学専攻」及び「経営学専攻」の2専攻体制に改組する。

(質疑応答)

Q. 改組に係る文部科学省への申請は、届出によるのか。あるいは、認可申請となるのか。

A. 今回の場合、届出の要件を満たしていると思われる。(笠島学術交流担当副学長)

(2) 生涯教育検討専門委員会

(a) 「生涯教育ビジョンに基づいた「公開講座の再編」骨子」

- 菅原公開学習センター長(生涯教育検討専門委員会委員長)から、標記の最終報告書に基づき、骨子概要の説明があった。

(質疑応答)

(意見)

- 今回の最終報告案を積極的に評価する。是非進めていただきたい。なお、公開講座の教室・オフィス等の場所として、現6号館の跡地をあててほしい。新宿通りに面しており、集客にも効果がある。
また、教室数が足りない中での新たな教室利用の提案であり、他のアカデミック・プラン、フィジカル・プラン等との委員会とも相互に情報を交換し、検討を進めていただきたい。
- 教員対学生の規模が学部ごとに異なり、教員数の少ない学部では、大学開放講座担当サバティカルとして専任教員が1人でも取られると、学生への対応が悪くなる恐れがある。その意味の「学部の規模」ということも考慮に入れてほしい。
- 専任教職員がきちんと対応する方式を整えることが必要である。そのための新しい対応方法を考えてほしい。

(質問)

- Q. 1)各学部から1名の大学開放講座担当サバティカルとして専任教員を出すとされているが、教員にその余裕があるのか。
2)土・日曜日に授業をしたくても職員の勤務体制を考えると無理があるのではないか。公開講座のための職員配置は可能か。
3)今以上に教室の手当が難しくなるが、教室に余裕があるのか。
- A. 1)現在でも、コミュニティ・カレッジ運営委員会に1名の教員を選出してもらっているが、これを発展させた方式であると考えていただきたい。
2)土・日曜開講については、必ずしも専任職員を要求しない。契約職員やパートタイム職員を充てることも可能であるとする。
3)土・日曜日や休暇中など、空いている時間帯を活用することが考えられる。

(菅原公開学習センター長)

- Q. 1)教員の負担は、現状と比べて実際はどのように変わると考えているか。
2)「大学院への進学と関連づけた学習相談を希望に応じて行う」とあるが、どのように対応するつもりか。
- A. 1)現在は、月1回の運営委員会に出席願っているが、再編案では、1年間は公開講座のための仕事をしてもらう計画でいる。仕事量は今よりも多くなるが、公開講座の今後の発展を目指すことを考えると必要なことである。
2)大学院で勉強したいと考えている人に対して、専任の教員が必要な情報を得て、それを提供していくということである。

(菅原公開学習センター長)

- Q. 1)サバティカルは研究上必要なものであるが、これをあきらめて公開講座のための仕事(大学開放講座担当サバティカル)をするということか。
2)大学教員が営業活動に向いているとは思えない。より効果的な方法を考えるべきである。
3)他大学では、企業等からプロを雇い、裁量を与えて結果を出している。そのような方法も必要なのではないか。
- A. 1)現在の研究休暇(サバティカル)をセンターの仕事に充てるというものではない。それ以外の方に1年間公開講座の仕事をしていただくようお願いしたいと考えている。
2)営業活動の向き/不向きは人それぞれである。あるいは、教員が直接動くのではなく、検討した結果を持って職員が動くという方式もある。
3)他大学の事例はすでに検討済みである。その場合でも、資格取得のための講座は外部と

提携しているが、それ以外の講座は大学が主体的に行っているし、そうするべきと考える。プロを雇わずとも、自分達の力でやる必要があるし、それにより存在意義も発揮できるというものである。
(菅原公開学習センター長)

(3)生涯教育検討専門委員会

(a)「基金・募金・寄付金室(仮称)の組織体制並びに活動計画概要(案)」

- 小瀬垣財務担当理事補佐(Mohr財務担当理事(財政計画等検討専門委員会委員長)所用により欠席)から、PowerPoint資料(映写)を用いて、募金室(仮称)と募金活動概要案について説明があった。
- 財政計画等検討専門委員会での主要テーマの一つとして検討し、2002年11月6日開催の長期計画企画拡大会議において中間報告を行っている。2003年12月17日開催の理事会において、財務部の中に基金・募金・寄付金室(仮称)が設置され、財務部内でこれまで検討を重ねてきている。

最終企画案(最終報告)の審議のあと、議長から意見書提出の方法について説明があった。

- 今回の質疑応答以外にも、委員からさらに意見を聴取したいので、当日配布資料にある『意見書』に、質問、意見、要望等を記入して、2004年6月18日(金)までに事務局(創立100周年記念事業推進室)宛て提出していただきたい。なお、配布した『意見書』を用いなくても構わない(様式は自由である)。また、電子メールによる提出も可能である。

2. 各計画の進捗状況について

これまで審議、実行されてきた各計画の進捗について、高祖理事長から説明があった。

(1)法科大学院

- 3月26日(金)に、マイスナー枢機卿をお迎えして、開設記念式典及び記念祝賀会を行った。
- 4月1日(木)に法科大学院(正式名:法学研究科法曹養成専攻)が開設された。
- 2005年度入試に向けたPR活動や説明会等も引き続き行っている。今年度の説明会は、4月28日(水)と6月2日(水)の2回行なわれ、どちらも多数の参加者があったとのことである。

(2)ヒューマン・ディグニティ構想に基づく新学部・新研究科の設立

- 名称を、「総合人間科学部/総合人間科学研究科」とする。
- 4月7日(水)に事前伺い書を文部科学省に提出した。4月27日(火)に文部科学省から、届出による設置が可能であるとの連絡があった。現在、届出書の作成を関係部署で進めている。
- 今後PR活動を積極的に進めていく。また、すべての教職員が、折りにふれて、新学部・新研究科について広報の役を担ってほしい。

(3)地球環境大学院

- 3月26日(金)に、設置構想委員会の下に「教員資格審査・カリキュラム検討委員会」を置き、地球環境大学院の教員審査やカリキュラムの検討を行った。
- 同じく、設置構想委員会の中に岡村法学部教授と法学・経済学・外国語学・理工学の各研究科委員長によるワーキンググループを設置し、教育課程の具体化などを検討してもらっている。

- 5月7日(金)に、地球環境大学院の設置申請に係る設置申請委員会を、笠島学术交流担当副学長を委員長として、関係事務部署の長により設置した。
- 5月26日(水)に、地球環境大学院準備室を発足した(室長：笠島学术交流担当副学長、副室長：岡村法学部教授)。準備室では、教学面等の運営準備に係る事項を取り扱う予定である。
- 6月1日(火)に、地球環境大学院の設置に係る事前伺い書を文部科学省に提出した。

(4)男子学生宿泊施設

- 4月12日(月)に建築契約を締結、4月21日(水)に地鎮祭を行った。
- 正式名称を「上智枝川寮」とした。
- 2005年3月竣工予定。2005年4月から学生が入居する予定である。
- 地上6階、全82戸(ワンルーム及び車椅子用1戸)。
- 運営方法について、学生総務担当副学長のもとにプロジェクトチームを作り、検討を重ねている。また、募集案内についても検討を行っている。

(5)研究機構

- 諸般の状況を勘案し、当初の予定を延期して、2004年7月1日に設立することとし、準備を進めている。

(6)資産運用管理規程

- 4月1日付で資産運用管理規程が制定された。なお、2005年3月までの1年間の暫定運用とする。
- 6月15日発行の上智学院広報に規程全文が掲載されるので、意見があれば出してもらいたい。

(7)比較文化学部再編

- 1月28日開催の長期計画企画拡大会議で審議した後、3月1日(月)にグローブ比較文化学部長を座長とする予備調査会を設置した。

(8)その他

- 2号館建築については、6月末で最上階のタワー・クレーンが撤去される予定である。また、2号館のエネルギー供給にあたるパワーステーション3(PS3)は11月竣工を予定している。なお、6月18日(金)に両方の棟上げ式を行う予定である。
- 2号館完成に向けて、移転委員会を設け、研究室、事務室等の引越しについて検討している。

3. 次回会議について

次回は、2004年7月7日(水) 15:30から、L-911で行うこととする。

なお、高祖理事長から、以下の発言があった。

- グランド・レイアウトには50を超える検討課題があるが、積み残しの課題もまだあるようである。各委員会においては、未検討の課題についても精力的に審議していただきたい。

以上